

⑤ 安政開港と長崎居留地

居留地の誕生

居留地って何にゃ？



1859(安政6)年7月、長崎は前年の安政五カ国条約締結に伴い開港しました。その後、戸町村大浦郷の海岸が埋立てられ、「居留地」と呼ばれる外国人専用居住区が大浦川両岸と隣接する山腹に開設されました。工事が完了すると、徳川幕府は区画整理を行い、次々と長崎を訪れる外国人商人や技師や宣教師たちに土地を貸し、彼らによる居留地内の自治権を認めました。大浦、下り松、東山手、南山手、出島、梅香崎および新地の7地区からなる居留地に、独特な洋風の建物群が現れ、国際貿易と文化交流の新時代が始まりました。当時の長崎では、現在、重要文化財にも指定されているこれらの建物が、「オランダ屋敷」と呼ばれていました。



みんなにゃ？
解るかにゃ？

クイズ 5-1

次のうち、幕末の長崎居留地に開設された工場は何？

- ①製材所 ②製茶工場 ③鉄工所



戸町村大浦郷(埋立て工事中)(長崎イギリス領事館資料)

1860(万延元)年秋の戸町村大浦郷。入江の埋立て工事が始まっています。(写真右手)集落の撤去後に居留地の建物が建設されていきました。入江の対岸には、日本最初のイギリス領事館が置かれた妙行寺と南山手に広がる段々畑が見えます。大きな松の木の下にトーマス・グラバーが自宅を建てるのはこの3年後になります。



グラバー邸

埋立て後の大浦地区(グラバー園蔵)

1867(慶應3)年ごろの長崎居留地です。洋風の建物群が大浦地区に現れています。屋根越しに南山手一帯と大きな松の木の下に立つグラバー邸(写真左側上部)が見えます。

豆知識

トーマス・グラバーが大きな松の木にちなんで、一本松邸というあだ名を自宅につけました。



ジョージ・モリソン

徳川幕府との交渉と居留地の開設における中心的な役割を果たした長崎イギリス領事のジョージ・モリソン(George S. Morrison)(個人蔵)

次は難しいにゃん!

クイズ 5-2

イギリス人のグラバーが住んでいたのに、グラバー邸はなぜ「オランダ屋敷」と呼ばれた？



《クイズの答え》 5-1.②製茶工場 5-2.長崎の人々は江戸時代から、親しみを込めてすべての西洋人を「オランダさん」と呼んでいたからです。